

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 5 日現在

機関番号：32614

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25350395

研究課題名(和文) 地域文化遺産の再生に関する総合的研究 - 紀の国屋大蔵の保存と活用 -

研究課題名(英文) General Study on the Regeneration for Areal Cultural Heritage.

研究代表者

内川 隆志 (UCHIKAWA, TAKASHI)

國學院大學・研究開発推進機構・教授

研究者番号：80176677

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究によって紀の国屋(佐山家)大蔵を取り巻く歴史的背景の多くが明らかとなった。大蔵の所有者である佐山家は、江戸時代末期に和歌山県箕島から江戸を経て佐原に移住した箕島陶器商人の末裔である事が判明し、古文書から明らかにされた同家の動向は、商都佐原の形成史や広く陶磁器を中心とした産業流通史的にも興味深い情報を提示するものである。明治25(1892)年の佐原大火を逃れた大蔵は文政9(1826)年に建造が開始された佐原でも古い建造物であり、現在国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている同市にとって非常に価値の高い地域文化遺産という評価が改めて確認された。

研究成果の概要(英文)：This study revealed many historical backgrounds around the Kinokuniya (Sayama family)'s Dozo building (traditional storehouse) in Sawara town, Katori city, Chiba prefecture, Japan. Sayama family, the house owner was a descendant of the Minoshima merchant for ceramics, who moved from Minoshima, Wakayama of the western Japan to Sahara, the eastern Japan in the late of Edo period. Their movements revealed by the old historical documents gave us interactive information about a making history of Sawara as a commercial town, and the history of industry and economy on ceramics in a broad sense. The Kinokuniya's Dozo building is the oldest building in Sawara town made in 1826 (Bunsei 9), remained even after a big fire in 1892 (Meiji 25). Therefore we realize that the building is a very important areal cultural heritage in Sawara town, which was designated as the Nation's Important Preservation District for Groups of Historic Buildings.

研究分野：博物館学

キーワード：地域文化遺産 紀の国屋 大蔵 佐山家文書 紀陶社 箕島陶器商人 重要伝統的建造物保存地区

1. 研究開始当初の背景

平成21(2009)年よりプレ調査に着手していた陶器商「紀の国屋」を経営する佐山家は、千葉県香取市佐原に所在する。同家の所持する大蔵は「重要伝統的建造物群保存地区」の対象地区から僅かに外れた景観形成地区に所在するものの、水郷佐原の町並みを形成する重要な歴史的建造物であった。その規模は全長約18m、高さ約7mを測り、佐原に現存する蔵では最大規模を誇るものであるにも関わらずその存在はほとんど知られていなかった。蔵内には、陶器商として明治15(1882)年に東京府下から佐原に移住した当時の文書類、陶磁器など同家の歴史的背景を精査するに十分な物証が多数残されていることから、建築史学・歴史学・考古学・文化財学・博物館学の各分野によって総合的な研究を実施し、地域文化資源としての歴史的価値を明らかにする事が可能であると判断し研究に着手した。

2. 研究の目的

佐原地域における重伝建の取り組みは、既に長い歴史と官民一体となった保全活動の賜と評価出来るが、全国に点在する多くの重伝建がそうであるように、町並みを形成する建物そのものの保存、つまり建築学史的な視点に重きをおいた保存であることは対象物の性質上問題のない部分である。しかし保存対象となる歴史的建造物であるそれぞれの家には、当然今日に至るまでに異なる歴史があり古文書や工芸品、歴史資料などの文化資源と共に今に至っていることに関しては、調査の埒外となるケースが多い。つまり家そのものの歴史的背景を徹底的に調査することによって、はじめて具体的な事実関係が明らかにできるのである。そのような意味から、本研究は単に歴史的建造物の保存を目的とするものではなく、建築史学・歴史学・考古学・博物館学といった異なる学問分野の方法論を用い、学際的な視点で当該地域にとって重要な歴史的建造物である大蔵の研究を行うと同時に、

その活用についても積極的に提言する事を目的とした。各分野の具体的な研究目標は以下のとおり。

〔史料学/古文書調査〕

蔵内部は2階構造となっており、2階奥に置かれていた行李内には夥しい古文書が保管されている。その調査を実施し、商家として発展を遂げた佐山家の歴史を具体的に明らかにする。

〔考古学的調査〕

蔵内には紀の国屋が創業した明治時代からの陶磁器が多数遺存しており、これらについて考古学的見地から時期別、産地別に分析を行い、加えて仕切書などの文書記録と照合し、その流通について検討する。

〔建築史的調査〕

建物の仔細な観察と史資料及びヒアリングなどをもとに建築年代を探り、規模・構造・意匠・材料と工法とともに、創建以来の改変とその変遷を明らかにする。また、破損状況も調査し、今後の再生に向けた修復の検討をおこなう。

〔博物館学的調査〕

全国の重要伝統的建造物群を中心に土蔵の活用事例等を集成し、活用の方向性を探る。それぞれの達成目標に沿って逐次研究会等を開催し、学会発表、論文、HPやFacebook等によって成果を公にし、最終的に得られた研究成果については、最終成果報告書としてまとめ公表する。

3. 研究の方法

基本的には、建築史学・歴史学(史料学)・考古学・博物館学を専門とするメンバーが年次計画を立て、随時方向性を探りながら研究を遂行した。前半は、建築史学においては基礎調査の実施、歴史学では関連地域調査、古文書の整理と翻刻作業、考古学では、資料の実測・写真撮影等の基礎作業、博物館学では重伝建における蔵活用調査など基礎調査を実施した。中盤、後半は、それぞれの研究テーマ

に則した中間報告、最終報告書の刊行を行った。3年間を通して年2～3回は佐原を訪れ蔵内の調査並びに周辺調査、菩提寺調査を実施した。平成25年には佐山本家のある和歌山県有田市箕島を訪ね、文献調査、墓石調査、千田神社、箕島神社をはじめとした関連施設の調査を実施した。

4. 研究成果

3年に亘って実施した本研究によって紀の国屋大蔵を取り巻く歴史的な背景の多くが明らかとなった。とりわけ江戸期より明治3(1870)年にかけて作成された金子借用証書類14点からこれらの翻刻文書が作成された時代の佐山家の当主は、紀伊箕島の2代目安兵衛から4代目安兵衛へと系譜を辿ることができる。2代目安兵衛(1793-1845)は文政6(1823)年に家督を継ぎ、弘化2(1845)年に没した。3代目安兵衛(1818-1863)は家督相続期が判然としないが、文久3(1863)年に下総国松戸植木屋平七方において病死したとされる。4代目安兵衛(1849-1909)は3代目安兵衛死去の年に相続したことは判明しており、明治10年代には佐原に移住し、家業である陶器・漆器商を営むようになったことが判明した。すなわち4代目安兵衛が佐原佐山家の初代であり、そもそも家業は紀州と江戸を行来する箕島(宮崎)陶器商人の末裔であった事が判明したのである。また、その後展開する陶器商としての隆盛を示す膨大な仕切書などの記録によって佐原での商業活動が明らかとなった。建築史的にみた大蔵は文政9(1826)年に造営が開始された佐原における建築物の中でも年号の明確な貴重な蔵であることが判明したのである。このように同家の動向は、商都佐原の形成史や広く産業流通史的にも興味深い情報を明らかにするものであり、その商いの核となった大蔵が往時の繁栄を今日に伝える象徴的なものであることが改めて認識されたのである。大蔵は、いわば商都佐原にとって価値の高い地域文化遺産という評価が改めて確認さ

れた訳であり、その視点に立った一刻も早い保護の手と保存と活用等についての方策を打ち出す局面を迎えている。本研究に携わった者全員でこの難題を見据え、貴重な文化遺産を後世に伝える活動を継続することが何よりも重要であろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計0件)

[学会発表] (計1件)

① 内川隆志 「地域文化遺産の総合的研究 紀の国屋大蔵の保存に向けて」全日本博物館学会第42回研究大会 2016年6月25日 明治大学(東京都千代田区お茶の水)

[図書] (計2件)

① 内川隆志 『地域文化遺産の再生に関する総合的研究』その意義と成果」、蒲生眞紗雄「四代目佐山安兵衛・ふく夫妻の肖像画について」、惟村忠志「紀の国屋佐山家墓所の調査」、鎌形慎太郎「卸小売商店からみる近代土管の流通」、鎌形慎太郎「卸小売商店における明治期の陶磁器仕入」、鎌形慎太郎「紀の国屋大蔵佐山家文書目録と解題(二)」、金出ミチル「紀の国屋の建築」、川崎香織・佐藤美香・倉田多実恵・近藤碧・遠藤麻美・木村勉「大蔵の収納物調査」、佐藤美佳「紀の国屋店舗の修復」、伊藤俊治「大蔵の基礎石」、蒲生眞紗雄「大蔵の大黒柱の墨書について」、蒲生眞紗雄「大蔵の鎮火加持砂関連資料について」、青木雄大「紀の国屋に遺存する瓦について」、尾上周平「紀の国屋大蔵の鏑矢型木製品について」、富永樹之「紀の国屋大蔵の陶磁器」、堀内秀樹「関東・房総における江戸～明治期にかけての陶磁器流通と紀の国屋大蔵の収蔵品」、小池聡・渡辺務・小山裕之「近代土管の消費実態～紀の国屋近代土管資料から」、伊藤大祐「重要伝統的建造物群における商家蔵の活用例」

② 『地域文化遺産の総合的研究(一)千葉県香

取市佐原 紀の国屋大蔵の保存と活用』 2014年100頁

内川隆志「地域文化遺産の再生に関する総合的研究の学術的意義」蒲生眞紗雄「紀の国屋佐山家の成立と佐原移住の経緯、鎌形慎太郎「近世・近代における紀の国屋大蔵周辺の社会環境」、金出ミチル「紀の国屋の建築-隠居所・作業場(離れ)・板倉-」、菊池邦彦「紀の国屋佐山家文書近世借用証文類の翻刻と解説」、鎌形慎太郎「明治三十八年における『木盃注文状』について」、伊藤大祐「昭和期の佐山家写真について」、鎌形慎太郎「紀の国屋大蔵佐山家文書目録と解題(一)」、「江戸・明治紀の国屋文書目録」

『地域文化遺産の総合的研究(二)千葉県香取市佐原 紀の国屋大蔵の保存と活用』 2016年206頁



『地域文化遺産の総合的研究(一)(二)千葉県香取市佐原 紀の国屋大蔵の保存と活用』

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

平成25年度活動報告会の開催

平成26年3月29日

國學院大學(東京都渋谷区)

平成25年度独立行政法人日本学術振興会科学研究費助成基盤研究(C)研究課題名「地域文化遺産の再生に関する総合的研究-紀の国屋大蔵の保存と活用-」(課題番号25350395)研究成果報告会

平成28年5月14日

國學院大學(東京都渋谷区)

ホームページ

<http://hcra.sakura.ne.jp/wp/archives/540>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/Hi>

storyCultureRegenerationAssociation

ロケスマ

重要伝統的建造物群保地区マップ

[ocasma://open?name](https://ocasma.jp/open?name)

[&url=http%3A%2F%2Fhcra.sakura.ne.jp%2Flocasma%2Fhcra01.kml](http://3A%2F%2Fhcra.sakura.ne.jp%2Flocasma%2Fhcra01.kml)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

内川隆志(TAKASHI UCHIKAWA)

國學院大學・研究開発推進機構・教授

研究者番号：80176677

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

堀内秀樹(HIDEKI HORIUCHI)

東京大学・埋蔵文化財調査室・准教授

研究者番号：60598762

木村勉(TSUTOMU KIMURA)

長岡造形大学・大学院造形学科・教授

研究者番号：60280608